

令和6年度 社会福祉法人 協愛福祉会 施設自己評価表

(保育理念)

Happy+Natural
Happy+challenge

(保育目標)

げんきな子 やさしい子
がんばる子 ゆたかな子

A：よくできている

B：わりとできている

C：一部改善が必要

D：改善しなければならない

| | 内容 | 前年度 評価 | 今年度 評価 | 現状・課題 |
|------------------|---|-----------|-----------|--|
| 保育 目標に ついて | (1)保育士一人一人が、協愛福祉会の保育理念、保育目標を理解している | B | B | 発信することのできる幼児に対する主体性は随分浸透してきたが、言葉をあまり発さない子どもたちの根本的な子どもの権利ということに対して、SNS研修を通して、職員間で考えるきっかけになった。しかし、まだまだ検討課題はたくさんある状況である |
| | (2)子ども一人一人の主体性を大切にしたい保育をしている | B | B | |
| | (3)すべての子どもについて一人一人の存在と、その人種を尊重している | B | B | |
| 保育 について | (1)保育計画に基づき、子ども一人一人の発達の姿や興味を把握して、年間計画、月のカリキュラム、週案を立てている | B | B | こどもの発信を大切に、そこからの見守りはできてきているが、共主体への課題がある。子どものつづやきも大事であるが方向性をしっかりこどもとの対話の中で受け止め、職員も一緒に楽しむことが課題。 |
| | (2)3歳未満児は、現在の姿を理解し、一人一人に保育計画を立てている | B | B | |
| | (3)素材・用具を適切に使用している | B | B | |
| | (4)環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫している | B | B | |
| | (5)職員間で子どもへの理解を深め、お互いの考えを十分に理解したうえで、保育を行っている | C | B | |
| | (6)1日の流れ(デイリープログラム等)は現行でよい | B | B | |
| 食育 について | (1)食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせて食育計画を立てている | B | B | 栄養士と保育教諭が連携をし食育を進めている。クッキングを盛んにしているが、職員の休み・当日のメニューで設定になっているため、フットワークの悪さが課題。 |
| | (2)栄養士、保育士が連携し、会議等で意見を交わしながらより良い給食になるよう努めている | B | B | |
| | (3)アレルギー疾患等の子どもに対し医師の指導の下、保護者との連携を図り適切な対応を行っている | A | A | |
| 役員 研修 分担 | (1)職員の仕事や役割が明確であり、それぞれの仕事を責任を持って行っている | B | B | 8月に大きな地震がありその後、園全体で研修を行い、それぞれの職員が実際の震災に対して考え、共有することが大切であることを感じ、風化させずに常に意識することが課題。 |
| | (2)危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が整えられている | B | B | |
| | (3)園内外の研修は計画を立て実行している | B | B | |

| | | 評価 | 評価 | 現状・課題 |
|-------------|---|----|----|--|
| 保護者支援・情報 | (1)保護者に対して、丁寧な言葉遣いと、気持ちの良い対応を心掛けて | B | B | 年度末のアンケートを実施。ほとんどの保護者の方が感謝の言葉が多かったが、中には以前のような保育の劇などしてほしいなどというこえもある。全世帯に本園の保育が浸透し、理解してもらえようどう配信をするのが課題。 |
| | (2)保護者に子どもの伸びているところや課題を伝え、連携をとっている | B | B | |
| | (3)様々な園行事を通して保護者との良好な関係を築こうとしている | B | B | |
| | (4)園日より、ドキュメンテーション、きつずノート、ホームページ等を通して、保育内容や子どもの姿や保護者への情報を発信している | A | A | |
| | (5)子どもの個人記録は、個人情報保護法に基づいて管理している | A | A | |
| | (6)職員に、園内で知り得た事柄に対しての守秘義務を周知徹底してい | A | A | |
| 開かれた 保育園 | (1)小学校と連携し、情報交換をする機会を待つ | A | B | 感染症以降、小学校との連携が減ってきている。多く連携をとり、園での保育を発信していくことが課題で、今年度から会議に副園長も参加し、連携が取れるように模索している。 |
| | (2)気になる子どもの対応について、外部の専門機関と連携をとりながら対応している | A | A | |
| 子育て支援 | (1)地域で子育てをしている親子の交流の場となるように努めている | B | B | 法人で行っている子育て支援に職員が参加し、中央についての発信を行っている。経験豊富な職員をつけていることで、保護者の悩みに聴く事を大事にし、寄り添っている。法人インスタの中で広報戦略委員会の職員が園での活動を発信している |
| | (2)子どもの心身の発達や育児不安について気軽に相談できるように努めている | C | B | |
| | (3)園生活の子どもの様子を地域にも発信している | D | A | |

総合的な現状と課題

今年度はSNSについての通達により、研修を行い、職員間でどう見直すかの再確認をすることができた。また細かいことなど課題があるが、その都度職員間で話し合いができる状況である。また、情報ツールを使って、細かな変更点は職員間で知らせることができた。子どもの権利を尊重するための保育も全体で考えるために、毎年おこなっているセルフチェックの見直しもし、普段の保育の振り返りを行っている。人権については、常に念頭に置いているが、年度末のアンケートで「子ども一人ひとりを大切に、保育をされている」という項目に4名の方がよくわからないという回答であったため、100%で「そう思う」と回答できるようにが課題である。ふれあいの中でつぶやきを拾い全体的に楽しみ子どもたちと過ごしているが、全世帯に理解できるような発信を行っていきたい。